

子ども達の掌に可愛い栗の実が握り締められる季節となりました。子ども達の遊びや草が季節を鮮明に反映してくれます。まさに猛暑が一転して、朝晩、フリースなどが必要な暮らしとなりました。

特に、年長児の身体は、四肢はすっと伸びて、その人生の成長点を感じさせてくれます。今年は年長児が多いせいか、ホールや畳のコーナーなどは、うれしい狭さになってきています。子ども達もすっかり落ち着き、未満児のおんぶやおむつ換え、お昼寝などの光景は暮らしの日常となり、大家族の中で見守れ、自然に受け入れている素晴らしい世界となっております。これからの2学期、思いやりのある大地のコミュニティの暮らしを更に、充実感をもって楽しんでいきたいと思っています。



【しなさい の喪失】（言うなりと追従）

「座っていないさい」「おしゃべりは止めなさい」「それはしてはいけない」「これにしなさい」「この道を行きなさい」「これはだめです」「今日は、こちらに行きなさい」など、の命令形（悪いイメージがあるが）が子ども達に対する、大人からの問いかけが喪失しつつあるような気がします。

究極の自然体験である登山では、先導する大人が生命保持のため、自然界のきまり、登山ルール、掟などを厳しく教えます。そうでないと、無事に、充足感を持った登山ができないからです。ガイドも十分な経験と先を読む力が自信としてあることは言うまでもありません。

これを子どもの人生にあてはめた場合、人生を先に歩いている大人達は、子ども達に人生の登山として、「こうしなさい」「ああしなさい」と伝えることは、決して、子どもの意志を無視することではなく、むしろ、社会で恥をかかないように、しつけとして、充足感のある暮らしを営める知恵（しつけ）である、暖かい愛情だと思えます。

子ども達は、先を読めず、現在の快不快だけで行動します。それに大人がその都度対応することは、意志の尊重ではなく「追従」「いいなり」だと思えます。おいしいコマースの添加物のある食品を欲しいからと食べさせ続けること（その危険な結末を知っているのに）は、尊重ではなく追従でありいいなりです。ここで「それはだめです」（あなたの未来の身体的安全のため）と、厳しく言えるかどうかです。将来を見通す自信と愛情があれば「こちらにしなさい」と、子どもが泣こうと叫ぼうと、きっぱりと言えるでしょう。

昨夜の夕食で娘が「マクドナルドも駄目」と言われていた反動で、高校生の頃、無茶苦茶食べまくったけれど、必ず、原点に戻ってくるのね」「そう言う年齢ってあるものなのよね」と、まさにその年齢の弟達に説いていました。我が家では、極端な例ですが、義務教育終了までは、親・家庭主導で子ども達の暮らしを先導し、高校生以降は、それまでに培った価値観と尺度を信じて、子ども達に任せるという子育てをしています。

テレビやゲームは駄目、その代わりに、遊びは、絵本や本、遊園地よりも家族で楽しむ（？）山登りや自然遊び、宿泊は、ホテルではなく、野宿やテント、レストランよりも大衆食堂や自炊、購入よりも修繕、学校よりも家庭の仕事、塾やお稽古事よりも、家族での団らんや家族での学び など、その都度、他人に下請けに出したりするのではなく、家族で落とし前を付けようとしてきました。子ども達は、「この親は、頑固でどうしようもない」と自他共に口にして諦めていたようです。

この反動が来ることはもちろん承知ですが、それが一旦あって、それから、20歳前後に必ず、原点回帰することを信じて来ました。まさに、高校生からは、放流された魚のように今までの価値観を原点に好きなことを見つけて、人生を歩んでいます。その意味で、大人になり、彼らの「言うなり」に親ははらはら見守っているのが現実です。

小さい頃「言いなり」になるか、大人になり「大人」としての自由な人生を見守れるかの違いは、原点に（小さい頃）どんな人生の尺度、心の持ち方、価値観、人生観、感覚、原体験、大人の生き方などを学んできたか だと思えます。それは、決して、知識、知育教育や暗記知識ではないと思えます。

物の価値感や社会の掟やきまりがまだわからない子ども達には、しつけとして、社会のルールを教えていくのが大人の役割ですね。「こちらにしなさい」と言えることは、大人に絶対的な愛情とこうしたら良いという自信がなければなりません。これは、大人の人生の問題になるので、ここでは割愛しますが、最低でも、社会のルールや心身の安全性だけは（人の話を聞く、時間に遅れない、約束は守る、マナーは守る、危険な食品は食べない、子どもにふさわしい遊び（他人や流行に惑わされるのではなく）各家庭で出来ることは、大人の権限として、子どもに「しなさい」として伝える事が必要だと思えます。

「勉強しなさい」は厳しいですね。（それは、なんのために勉強するのか、その趣旨を人生と照らし合わせて、子どもにうまく説明出来ないし、私自身も、原体験、価値観として、示すことが出来ない）「沢山遊べ」は自信をもって言えますけど。

社会の掟やきまりを教えやそうする事による幸せ享受のため、自信をもった「しなさい」の命令を下してみませんか。必ず、将来、あの時は教えてくれて「ありがとう」が帰ってくると思います。そして、子どもの人生を自分たちの価値観で、信じて見守りましょう。